インドネシア・ジャカルタで、国家研究革新庁、笹川平和財団と国際共同ワークショップを開催しました（2026/10/21）

テーマ：災害科学、災害レジリエンス、沿岸域、漁村、スラム、地盤沈下、気候変動、国際共同研究
会　場：インドネシア国家研究革新庁（BRIN）（インドネシア・ジャカルタ）
https://brin.go.id/news/131042/brin-soroti-dampak-sosial-perubahan-iklim-pada-masyarakat-pesisir?fbclid=IwdGRjcAVXcJJleHRuA2FlbQIxMQBwZG9mBWZkaWQWURnqm1AwpZmgGl8V3Tn57sRGylF7_nNydGMGYXBwX2lkCjY2Mjg1NjgzNzkAAR9YbDn92NP9-XjVObuMTTjEhypyTHN3dYH1lpfK0s1z3SN44NKiHadd_SmzPA_aem_vdMMmJr3ncqKTHE8JPkYVQ
https://doi.org/10.20965/jdr.2025.p0710（関連する学術論文）

2026 年 10 月 21 日、インドネシア・ジャカルタ中心部に位置する国家研究革新庁（BRIN、大統領直属の統合研究機関）において、当研究所、同庁、公益財団法人笹川平和財団の共催により、中央省庁やジャカルタ首都特別州政府の担当者らを集めた国際共同ワークショップ「Understanding Loss and Damage among the Urban Poor in Coastal Greater Jakarta: Reflections from Household Survey Evidence」を開催しました。

本ワークショップには、当研究所から小野裕一副所長・教授（本学副理事（国際防災政策担当）、2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）、前川美湖特任教授（客員）（気候変動適応防災学分野、本務先：笹川平和財団）、原裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）が参加し、本学大学院環境科学研究科先端環境創成学専攻の吉永拓海氏（修士 1 年）も運営に関わりました。

本ワークショップは、当研究所を含む上記３機関で進めてきたジャカルタ沿岸域の漁村や非公式居住地（スラム）の生活・生業の実態と、地盤沈下、災害脆弱性、気候変動適応に関する国際共同研究の成果を関係諸機関に報告するとともに、政策還元を進める上での検証を目的として開催され、前川特任教授が基調講演を行い、小野教授が閉会挨拶を行いました。

当日は、インドネシア中央政府から国家開発計画庁、国家防災庁、環境省気候変動適応局、人間開発・文化担当調整省、海洋水産省等の各省庁、ジャカルタ首都特別州から地方開発計画庁、地方防災庁、環境局、都市計画・住宅整備局等の各部局の担当者が出席しました。また、世界 125 カ国を超える地方自治体が加盟する ICLEI（持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会）、インドネシア大学、ルジャック都市研究センター等からも参加があり、活発な意見交換が行われました。本ワークショップの内容は、BRIN の Web サイトでも特集されています。


国際共同ワークショップの様子


集合写真

文責：原 裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）